

序 ツインシティ整備の意義

1 ツインシティ整備の意義

県と期成同盟会では、ツインシティ整備の意義を次のように考えています。

(1) 首都圏を分散型ネットワーク構造へと変えていくための核とする。

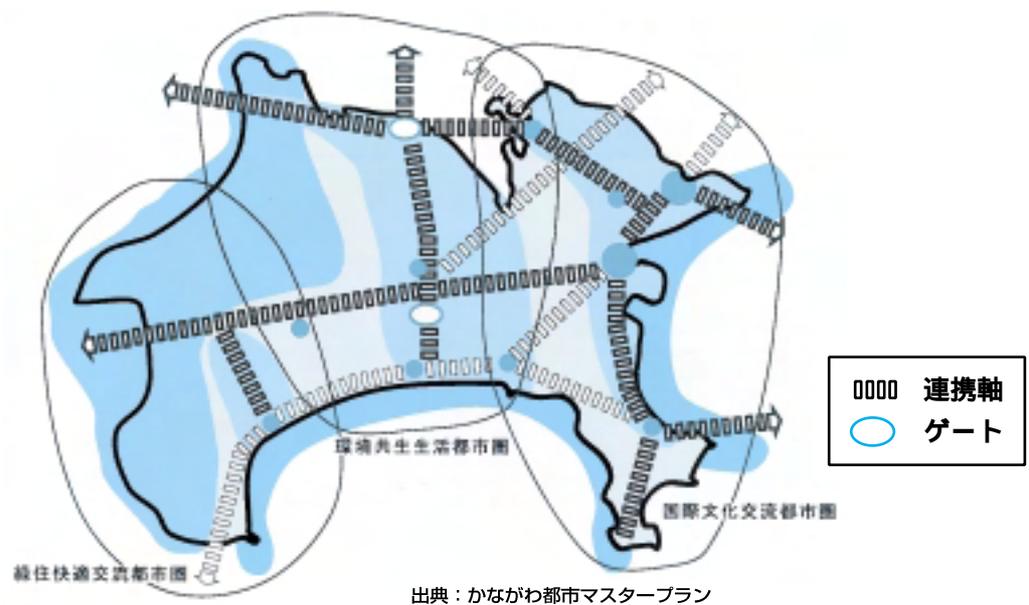
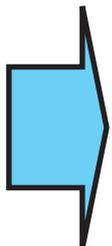
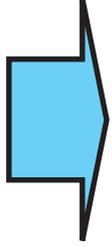
- ツインシティは、首都圏の機能分散の一翼を担う厚木広域連携拠点の業務施設集積地区であり、鉄道と高速道路によって、東京、関西方面や首都圏の中央環状軸方面への交流連携の窓口となります。また、周辺地域には、首都圏でも有数の産業や学術研究機関が集積しています。
- ツインシティの形成にあたっては、このような立地特性を十分活用して、既存の産業の活性化や新たな産業の創造につながる都市づくりを展開し、業務集積や就業面において首都圏の機能分散の受け皿となる都市づくりを進めます。
これにより、首都圏の一極集中構造を分散型ネットワーク構造に変えていきます。

(2) 「県土全体のバランスある発展」を導く核とする。

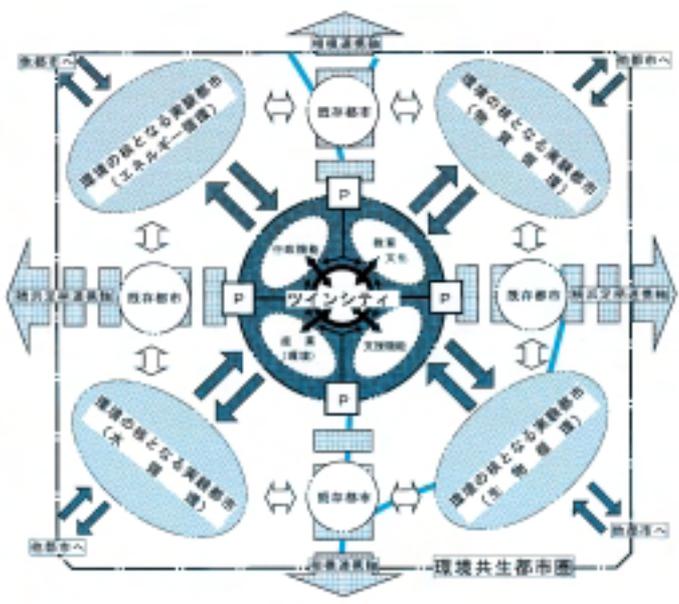
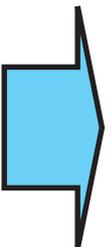
- 県土の将来を見据えると、産業や行政機能の立地、地域文化の形成を視野に入れながら、県の都市構造が複眼的になるように整備していく必要があります。行政機能の一部も具備し、地震などの非常時には、代替・補完手段の確保された都市圏整備をする必要があります。
- ツインシティの形成にあたっては、全国との交流連携の窓口（ゲート）という特性を活かして、都市圏全体の発展につながるような産業、広域行政、教育・文化、防災などの機能集積を図り、県土全体のバランスある発展を導きます。

(3) 県央・湘南都市圏を環境と共生する都市圏へと誘導していくための核とする。

- ツインシティの形成にあたっては、県民・企業・行政の参画・協働のもとに計画的な都市づくりを展開し、地域の自然や歴史文化を生かすとともに、地球規模の環境問題に配慮した環境共生のモデルとなるような都市づくりを進めます。
- ツインシティを契機に、都市圏内で環境と共生する都市づくりを展開するとともに、ツインシティと周辺都市や新たな産業研究拠点とが連携することによって、一つの都市では対応できないような物質・水等の広域循環システムを構築し、都市圏全体を環境と共生する都市圏へと導きます。



出典：かながわ都市マスタープラン



かながわ新総合計画21を修正

2 ツインシティがめざす都市像

県と期成同盟会では、ツインシティがめざす都市像を次のように考えています。

(1) 広域的な交流と連携の窓口（ゲート）となる都市

さがみ縦貫道路（圏央道）、第二東名高速道路、東海道新幹線などの高速交通網への円滑で迅速なアクセスを確保します。

また、高速交通体系の結節機能を活用した拠点整備を進めることにより、都市圏における広域的な交流と連携の窓口（ゲート）となる都市をめざします。

(2) 地域の環境と共生し、地球環境にやさしい環境共生都市

相模川の河川空間および周辺の農業、田園環境などとの共生を図るとともに、省エネルギー型、循環型、低環境負荷型の地球環境にやさしい環境共生都市をめざします。

(3) 新しい産業を創出・育成する都市

都市圏内に高度に集積している先端技術産業、都市農業、流通関連産業等のさらなる高度化、多様化を支援する機能誘導を図るとともに、業務核都市や地域の拠点などと連携して、環境や情報などの分野での新しい産業を創出育成する都市をめざします。

(4) 新しい生活スタイル・ワークスタイルを実践する都市

周辺の農業や河川空間との共生、高速交通体系の結節機能を活用した拠点整備、新しい産業を創出・育成する機能誘導を通じて、都市と農業との連携や職住近接、ゼロエミッションの追求などの新たな生活スタイル・ワークスタイルを実践する都市をめざします。

「ツインシティ整備の意義」を踏まえ、「ツインシティがめざす都市像」を実現する取組みを進めていく中で、周辺諸都市もそれぞれの地域特性を生かした活性化や環境共生をめざす都市づくりを連携して進めていくことにより、県央・湘南都市圏では、

- 持続可能な社会を支える「環境と共生する都市圏」
 - 交流と連携を実現する「ネットワーク型都市圏」
- を形成していきます。

〈ネットワーク型都市圏形成の概念図〉

